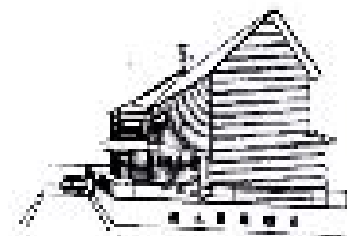


<市民クリスマス準備祈禱会から> 草薙教会は市民クリスマスを担ってきました。準備祈禱会では、創世記11章1～9、バベルの塔の出来事から学びました。“互に言った、「さあ、れんがを造って、よく焼こう」。こうして彼らは石の代りに、れんがを得、しっくい代りに、アスファルトを得た。”とあります。すなわち、おおいに文明の利器を手にしたということになります。そのうえ人々はみな同じ考えを持ち、同じ言葉を使っていたそうです。一見素晴らしい世界のように見えます。いさかいなど起こりようもありません。ここに“おごり”があったわけです。自信に溢れた人々は自分の力を信じ、高い塔を建てようとしていました。今も世界では高い塔が、力と統一のシンボルとして建てられています。中東には、高さが1kmを超えるすごいビルが建設されていますし、アメリカでは、1750 フィートに達するビルが建設されています。ロシアには世界一高いテレビ塔がありますし、東京タワーができた時、私たちは何となく喜びました。互いに争う勢力は皆“そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう(4節)”と言っています。そこには主なる神に信頼することはありません。神はこれを御覧になったのです。“そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう。(7節)”とされました。“人と人との心がよわず”という讚美歌があります(新聖歌41)が、そのようになったのです。救いの神は、“文明の進歩を不幸の原因にすることを拒まれたのです”。言葉が違い、考えが違うというのは素晴らしいことなのです。違う経験や文化の中に育った人がいるのは素晴らしいことです。“主への願いが力をいただく源泉”になるようにされたのです。同じ考えを持ち、通訳などというものの必要もなく、みな同じという世界、全く平板で、刺激のないものです。好きな人を選ぶこともないでしょう。違うからこそ、私たちは“協力する、教えあう”ということが出来るのです。神に頼って、違う人同士がともに暮らす素晴らしい世界を、豊かなものとして神は作られたのです。神に頼らなかつたためにこの豊かさを、幾度となく争いと不和の原因にしてきたのが人々の歴史です。教会も同じです。決して“信仰が違う”ということに目を向けてはいけません。そのようなときには“私の信仰理解”をしっかりと持ちたいものです。そうすれば“尊重する”という言葉も意味を持ちます。各地でクリスマスの計画ができなくなった歴史を忘れずに、清水の市民クリスマスを大切にしましょう。

週報

2009年 5月 24日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp